

文芸

俳句

コヒーの冬の木洩日映しけり 池田 逸子
 大寺の鵝尾の光や笹子鳴く 伊藤 敬子
 貨車列ね動輪軋む冬の闇 伊藤 定男
 冬木立間に間に温し遊歩道 今関満喜子
 「龍馬伝」終わり今年も暮れにけり 魚地 照子
 岩肌に残る夕日や浜千鳥 江森 悦子
 句に託すわが人生の冬支度 大谷 武彦
 秋冷や切子ガラスに透くワイン 川島 孝夫
 餅搗く日帰ると言う吾子待ちあたり 川島 通則
 明治より晴の日となる文化の日 向後 寛
 柏犬さん银杏落葉の大襦 越川せつ子
 ふとくろにすきま風吹く年の暮れ 越川 義則
 角曲ればぼつと足許石路の花 越川 福子
 放水の水のアーチや冬の雨 小松 藤男
 犬吠の朗人の句碑や帰り花 佐瀬 輝夫

畦道をやばめるほどに野菊かな 実倉 道子

年の暮老いに歯止めのなかりけり 鈴木とし子

診察室マスク向き合う含み声 鈴木 利子

若々し白菜漬けの歯切れ音 玉虫 栗扇

年の暮氣持ばかりが先走り 土屋美枝子

小春風るるりと回す土竜よけ 土屋 義昭

温泉にトラフグ育て味上げて 戸村 静菴

髪結いも着付けも終えて除夜の鐘 西崎さち子

手袋を外し手帳をめくりけり 早川 勇

短歌

己が死を見つめる齢となりけり 一日一日を楽しく生きん 鈴木 益郎
 浴槽に袖子の実いくつ浮かべたる 夜半の薫りに心伸ばせり 高梨 キヨ
 湯のぬくみふふみし布団に包まれて 平凡に生き年暮れむとす 土屋 好

 温州の蜜柑は色の深まりて 挽ぐ時期鳴が知らせられりつ 鈴木まさ子

校庭に立てる公孫樹は黄葉し 塔の如くに簪えあるなり 吉岡 信子

国道に添ひて刈りたる草燃さむ 明朝の風おだしの予報 青木 秀子

護摩を焚く火に照らされし不動明王 忿怒の形相吾れに迫りて 西山満里子

スカートの仕上りを待つ幼な子の 目差し吾を氣負ひたせつ 押尾 輝子

つまらないドラマ見るより面白い 国会中継ひたに見てあつ 田崎 尚美

いつになく胸に沁み入る雨の音 夫入院の一人居の夜 芹川 初子

夕暮の暗みまし来て中空の 淡き満月をきはやかにせり 八角 三枝

この秋はびっくりする程掃実り 仲よき友にもお裾分けする 平山 芳子

白き花の秋明菊は固まりて そそと揺れをり帰りし夜に 池田 春江

指先の擦れてかさかな音立てぬ 冷たき冬にはやも入りゆく 島田ますみ

庄売家で種戴きし冬珊瑚 十年余庭を朱に彩る 齊藤つね子



貝化石の入った岩

町内の所々でおかしな岩を、見かけることがあると思います。また、古川地区の石合大師や浅間神社のある小山の下を見ると、硬い砂の岩が出ていて、岩山であることが分かります。この岩は縄文海進の時、海水が砂の地層を洗った際、海中の石灰分が砂に付着して、砂の地層を固めたものとされ、山武市成東の浪切不動院下や早船に見られる岩も同様のものです。しかし、それだけでは説明できないところがあることが、ここで紹介する貝化石の入った岩に見ることが出来ます。貝化石は岩によって異なりますが、カキや種類不明の二枚貝など、縄文貝塚で見る貝とは異なる貝が、砂の中に硬く入っています。また、この岩は九十九里地域や東京湾岸の縄文海進があつた地域のどこでもあるのではなく、成東から当町の宮川地区までに限って見られます。そのことから考え合わせると、この岩は古い地層が隆起し、山と

なつてその頂上の硬い部分で、地表に現れたものと考へられます。このように砂の地層が硬く固まるまでに、研究者の話では百万年以上かかると言われ、貝化石からもそのくらい古い岩と推定されます。千葉県最東端の銚子市大吠崎では、六千万年前の中生代の砂の地層が露出し、貝化石を見ることが出来ますが、そこまで古くなくとも、町内で太古の岩と貝化石に触られるのも、町の歴史の深さを感じる一つになると思います。



▶上町八坂神社境内にある貝化石の入った岩